

営農ウィークリーNEWS

「黄色LED」を活用した、害虫防除技術



設置された黄色LED

光を利用して害虫を防ぐ技術



○夜行性の害虫は、夜に黄色のライトがついていると、
 屋と勘違いしてしまい、畑に近づいてきません。
 ○そのため、害虫は農作物を食べなくなります。



オオタバコガによる被害果

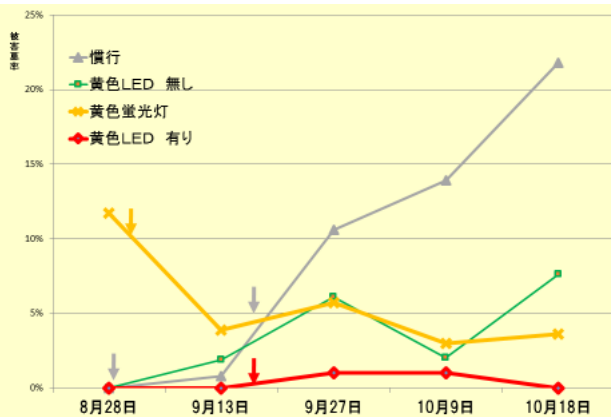


図1 オオタバコガによる被害の推移 (幼果100個を各区で調査)

↓は、殺虫剤散布日

オオタバコ被害調査の結果

近年、LED光を利用したヤガ科害虫防除は、IPM（総合的病害虫管理）防除として注目されています。「オオタバコガ」は、若齢幼虫が新芽の先端や葉、花、幼果を食害するため、収量が低下します。また、中老齢幼虫は果実の中にも食入するため、商品価値がなくなるなど被害のダメージは大きいものがあります。

成虫は、夜行性であるため、光による防除法は、黄色蛍光灯を設置して終夜点灯することにより成虫の行動を抑制し、被害を減少させることが知られています。

黄色蛍光灯は、100Vの電源が必要で圃場条件によって設置できないことが課題でした。今回ご紹介する黄色LEDの電源は、ソーラーパネルとバッテリーで駆動し、消費電力も少なく、圃場条件を選ばないことが最大の魅力です。

設置費用についても、従来の黄色蛍光灯と比較しても安価で設置することが可能です。

2018年より2年間、生産農家、京都乙訓農業改良普及センター、京都乙訓地域特産物育成協議会等の協力のもと、管内ナス圃場にて防除試験を実施した結果、効果があることを確認しました。

茄子だけでなく、ネギ、トマト、ピーマン、キャベツ、ダイコン、トウモロコシ等多くの作物の防除に活用できます。

ご興味のある方は、お気軽にJAまで、お問い合わせください。

—TAC information—

営農ウィークリーNEWS

祝「500号!!!」



2010年から取り組みを開始し、10年目を迎えた営農ウィークリーNEWSがついに、500号を迎えました。

ジャンルにとらわれない情報発信をコンセプトに、皆様に早く情報提供ができるよう毎週発行してきました。

今後も、継続して情報発信の取組を行いたいと思います。よろしくお願いいたします。

今年は、多発傾向です！

ジャンボタニシ被害を防ごう！

1980年代に食用目的で日本に導入されたスクミリンゴガイ（通称ジャンボタニシ）は野生化し、基本的に柔らかい葉を好んで食べ、移植直後のイネで食害による欠株の被害が発生しています。本年の冬季の気温は総じて高く、寒さに弱い貝は越冬する数も多めと予測されることから、今年は被害の増加が予測されます。

被害状況の特徴ですが、田植え後 20 日までのイネが柔らかい時期に集中しており、水温が高くなるほど活動が活発になり被害が増加します。また、深水になる田面の低い箇所やマクラ周辺に被害が目立ち、大型になるほど食害量は大きくなります。

そのような食害から守るためには圃場への侵入を防ぐ「入れない」、貝がイネに寄り掛かれないよう「食べさせない」、越冬個体を少なくする「広げない」ことがポイントです。

具体的な対策としては以下のことが必要となります。

- (1) 水路の泥上げや取水口からの貝の侵入防止など用水路や取水口の管理をしっかりとる。
- (2) 貝は水中でしか稲を食べることができないので、水深 4 cm 以下とできる限り浅水管理を行う。
- (3) 冬場に耕耘し物理的に破壊したり殻を傷つけ寒さの耐性を低下させることや、卵は水面下へ払落し個体を駆除する。

それでも食害が発生したら防除剤で迅速に対応しましょう。詳しくは JA、普及センターにご相談ください。

近年増加しているゲリラ豪雨などの多量の雨水が貝の移動手段となった急激な多発には、特に早急な対策が必要となります。



ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）



ジャンボタニシの卵塊



ジャンボタニシ被害にあった水田

オススメ薬剤「スクミン」



上記のような対策を行っても、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）被害が発生してしまう場合があります。

また、一旦発生してしまうと、すべてを駆除することは非常に困難で毎年被害が発生してしまう可能性が非常に高くなります。その場合には、薬剤での防除をオススメします。

毎年被害が発生する場所では、移植直後や被害発生前に散布して下さい。

